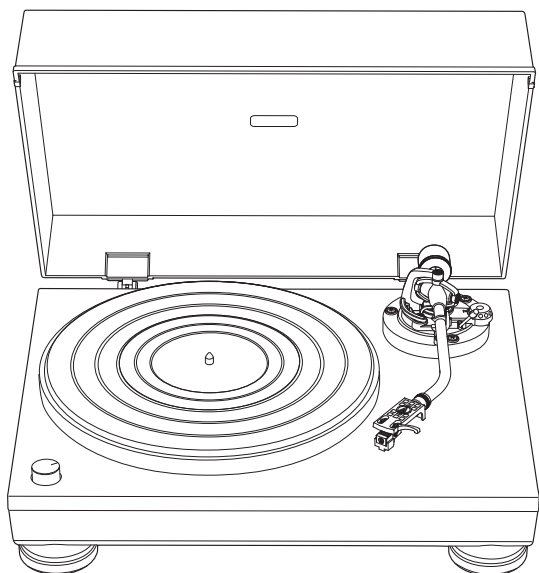


AT-LP5

ダイレクトドライブターンテーブル

取扱説明書



はじめに

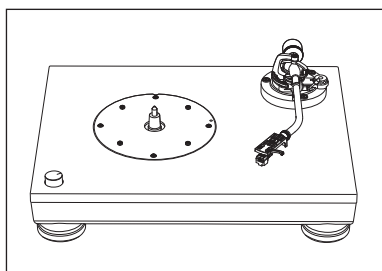
お買い上げありがとうございます。

ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みのうえ、正しくご使用ください。また、保証書と一緒にいつでもすぐ読める場所に保管しておいてください。

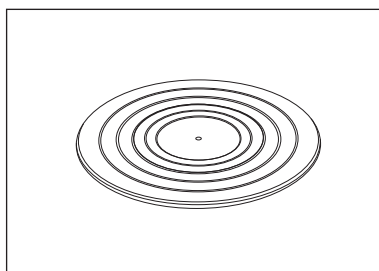
同梱品の確認

本製品をご使用になる前に、下記同梱品がすべてそろっていることを確認してください。

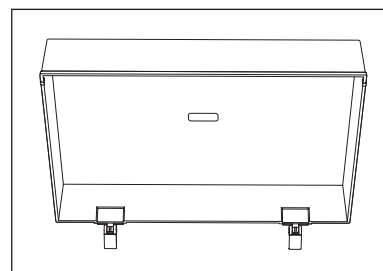
万一、同梱品に不足や損傷がある場合は、お買い上げの販売店または当社窓口までご連絡ください。



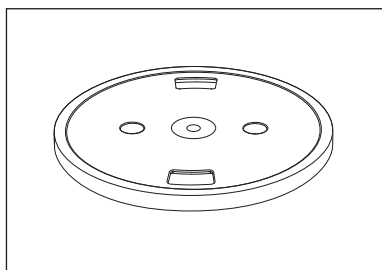
・ターンテーブル本体



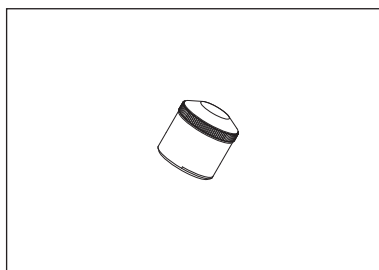
・ラバーマット



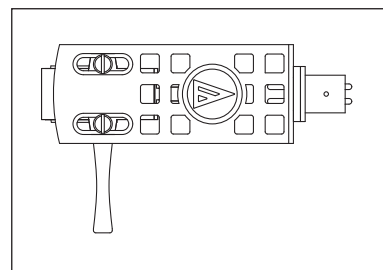
・ダストカバー



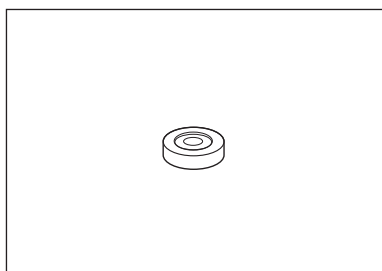
・プلاتター



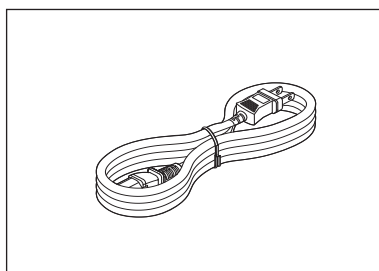
・カウンターウェイト



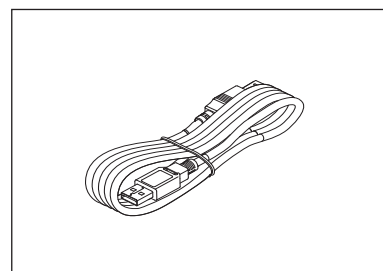
・VM型ステレオカートリッジ(AT95EX)付き
ヘッドシェル(AT-HS10)



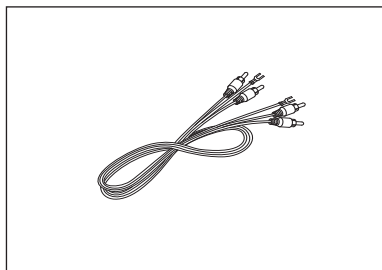
・EPアダプター



・電源ケーブル (1.9m)



・USBケーブル (1.9m)



・RCAオーディオケーブル (1m)

- ・取扱説明書(本書)
- ・クイックスタート・オーバーハング調整ガイド
- ・MusiCut Plus取扱説明書
- ・MusiCut Plus初回起動時のパスワードのお知らせ(取扱説明書(本書)の中に入っています)
- ・保証書

ご購入後、保管、移動、輸送する場合に備え、すべての梱包材を保管しておくことをおすすめします。

安全上の注意

本製品は安全性に十分な配慮をして設計していますが、使いかたを誤ると事故が起こることがあります。事故を未然に防ぐために下記の内容を必ずお守りください。



警告

この表示は「取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性があります」を意味しています。



注意

この表示は「取り扱いを誤った場合、使用者が傷害を負う、または物的損害が発生する可能性があります」を意味しています。

本製品について



警告

- 付属の電源ケーブル以外使用しない
電流容量などの違いにより、火災・感電の原因になります。
また、故障・不具合の原因になります。
- 異常（音、煙、臭いや発熱、損傷など）に気付いたら使用しない
異常に気付いたらすぐに使用を中止して、コンセントから抜きお買い上げの販売店に連絡してください。そのまま使用すると、火災など事故の原因になります。
- 火気に近づけない / 火の付いたキャンドルなどを上に置かない
火災の原因になります。
- 分解や改造はしない
感電によるけがや、火災など事故の原因になります。
- 強い衝撃を与えない
感電によるけがや、火災など事故の原因になります。
- 濡れた手で触れない
感電によるけがの恐れがあります。
- 水をかけない / 水滴や水しぶきのかかる場所に置かない
感電によるけがや、火災など事故の原因になります。
- 本製品に異物（燃えやすい物、金属、液体など）を入れない
感電によるけがや、火災など事故の原因になります。
- じゅうたんや布などで覆わない
過熱による火災など事故の原因になります。
- 同梱のポリ袋は幼児の手の届く所や火のそばに置かない
事故や火災の原因になります。



注意

- すぐにコンセントから電源プラグを抜くことができる場所に置く
電源スイッチを切っても、コンセントからは完全に遮断されていません。故障、不具合の原因になります。
- 不安定な場所に置かない
本製品の落下などにより、けがや故障の原因になります。
- 換気の良い場所に置く
本製品を換気の悪い場所に置くと、熱がこもり、火災など事故の原因になります。ラックなどに入れるときは、放熱をよくするために本製品の周りに隙間を空けてください。
- 直射日光の当たる場所、暖房器具の近く、高温多湿やほこりの多い場所に置かない
感電によるけがや、火災など事故の原因になります。また、故障、不具合の原因になります。
- 本製品の上に物（花瓶・植木鉢・水の入ったコップ・金属など）を置かない
万一、倒れた場合、感電によるけがや、火災など事故の原因になります。
- ベンジン、シンナー、接点復活保護剤など薬品は使用しない
変形、故障の原因になります。

安全上の注意

電源ケーブルについて

警告

- **表示している電源電圧以外で使用しない**
過熱による火災など事故の原因になります。
- **本製品以外には使用しない**
電流容量などの違いにより、火災・感電の原因になります。また、故障・不具合の原因になります。
- **異常（音、煙、臭いや発熱、損傷など）に気付いたら使用しない**
異常に気付いたらすぐに使用を中止して、コンセントから抜きお買い上げの販売店に連絡してください。
そのまま使用すると、火災など事故の原因になります。
- **ケーブルは釘などで固定しない、束ねたまま使用しない**
過熱による火災など事故の原因になります。
- **コンセントや本体にプラグを差し込むときは根元まで確実に差し込む**
過熱による火災など事故の原因になります。
- **ケーブルを引っ張らず、プラグを持ってまっすぐ抜き差しする**
断線、故障の原因になります。
- **ケーブルの上に物を置いたり、敷物や家具などの下に入れたりしない**
感電によるけがの恐れがあります。
- **分解や改造はしない**
感電によるけがや、火災など事故の原因になります。
- **強い衝撃を与えない**
感電によるけがや、火災など事故の原因になります。
- **濡れた手で触れない**
感電によるけがの恐れがあります。
- **布などで覆わない**
事故や火災の原因になります。
- **プラグにたまったほこりなどは乾いた布で定期的に拭き取る**
長い間掃除をしないと、火災など事故の原因になります。
- **すぐにコンセントから電源プラグを抜くことができるようにする**
電源スイッチを切ってもコンセントからは完全に遮断されていません。万一の事故防止のため、本製品をコンセントの近くに置き、すぐにコンセントから電源プラグを抜くことができるようにしてください。

注意

- **長時間使用しないときは、コンセントから抜く**
火災の原因になることがあります。安全のため、必ずコンセントから抜いてください。また、省エネルギーにご配慮ください。
- **足に引っ掛かりやすい場所にケーブルを引き回さない**
故障や事故の原因になります。
- **ベンジン、シンナー、接点復活保護剤など薬品は使用しない**
変形、故障の原因になります。

使用上の注意

ターンテーブル本体について

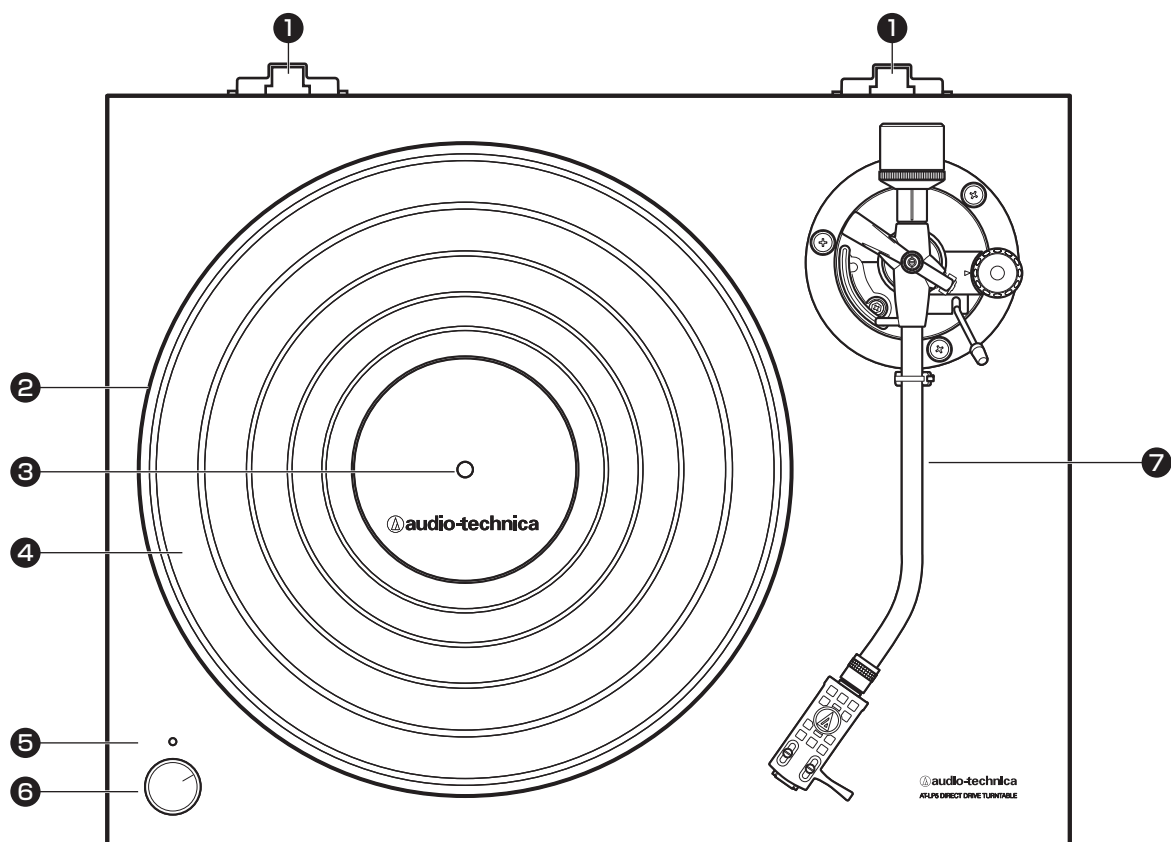
- ・ 温度や湿度の高い場所、ほこりの多い場所、大きな振動がある場所には本製品を設置したり使用しないでください。
- ・ 本製品は、傾きのない水平な場所に置いてください。

カートリッジについて

- ・ 本製品を使用しないときは、付属のプロテクターをカートリッジに取り付けてください。
- ・ カートリッジの針に指で触れないでください。
- ・ カートリッジの針をブラッター、ラバーマットやレコードの縁部にぶつけないでください。

各部の名称と機能

本体上面

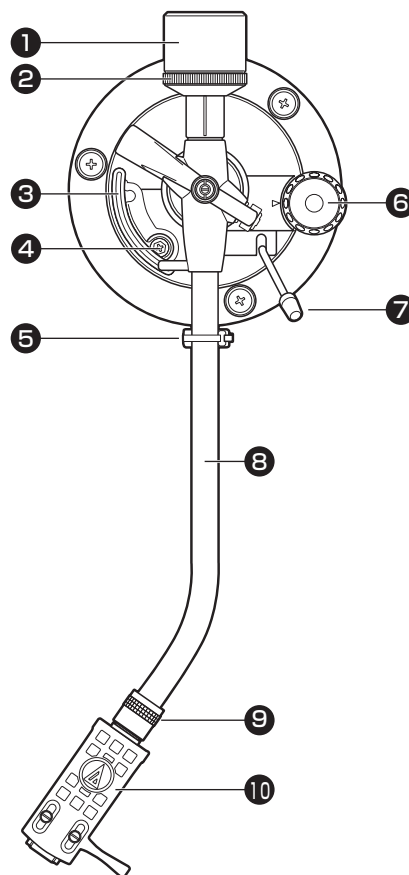


- ① ヒンジホルダー
ダストカバーのヒンジを取り付けます。
- ② プラッター
- ③ スピンドル
- ④ ラバーマット
- ⑤ 電源インジケータ
- ⑥ コントロールノブ
プラッターの回転数(33 1/3回転または45回転/分)の選択や始動/停止に使用します。
- ⑦ トーンアーム部
詳細は、「トーンアーム」(P.5)を参照してください。

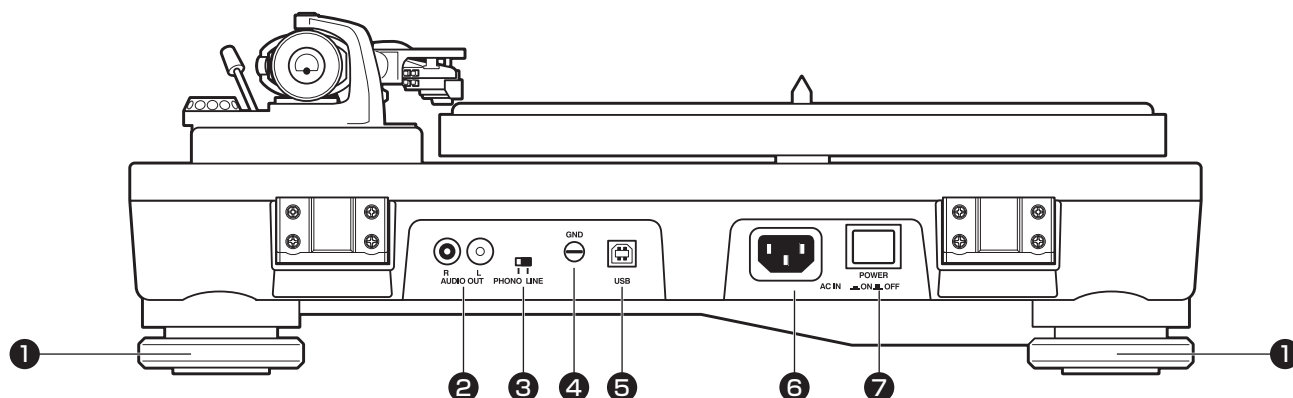
各部の名称と機能

トーンアーム

- ① カウンターウェイト
トーンアームのバランスをとり、適切な針圧に調整します。
- ② 針圧調整リング
針圧を調整する際に使用します。
- ③ アームリフター
トーンアームをレコード盤面から上下させます。
- ④ アームリフター高さ調節ネジ
アームリフターの高さを調整できます。
- ⑤ クランプ付きアームレスト
トーンアームが動かないようにクランプを使用して、固定することができます。
- ⑥ アンチスケイティング調整ダイヤル
レコードの再生中、針先が内側へ引っ張られる力が発生します。アンチスケイティングの値を針圧値と同じに設定することで、その力に抵抗します。
- ⑦ リフターレバー
アームリフターを操作します。
- ⑧ トーンアーム
J字型のためトラッキングエラーが少ないトーンアームです。
- ⑨ ロックナット
リング部を反時計方向(左)に回すと、ヘッドシェルが固定されます。ヘッドシェルを外すには、リング部を右に回転させます。
- ⑩ ヘッドシェルとカートリッジ
ヘッドシェル(AT-HS10)に、カートリッジ(AT95EX)が付いています。



本体背面



- ① 脚部
本製品の水平調整をします。
- ② RCA出力端子(ステレオ)
RCAオーディオケーブルを接続します。アンプのPHONO入力端子またはLINE入力端子に接続してください。
赤色端子が右チャンネル、白色端子が左チャンネルです。
- ③ PHONO/LINE切換スイッチ
PHONO入力端子のあるアンプを使用する場合、PHONO側に設定します。アンプのAUX端子などに接続する場合は、LINE側に設定します。
- ④ グランド(アース)端子
アンプのグランド(アース)端子とこの端子を、RCAオーディオケーブルのアース線で接続します。
- ⑤ USB出力端子
付属のUSBケーブルを使用して、パソコンと接続します。
- ⑥ ACインレット
電源ケーブルを接続します。
- ⑦ 電源スイッチ
電源をオン/オフします。

使用前の準備

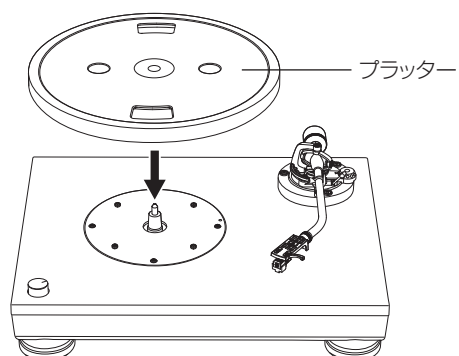
組み立てる

本製品は、初めてご使用になる前に組み立て作業が必要です。
組み立てが終わるまでは電源ケーブルを接続しないでください。

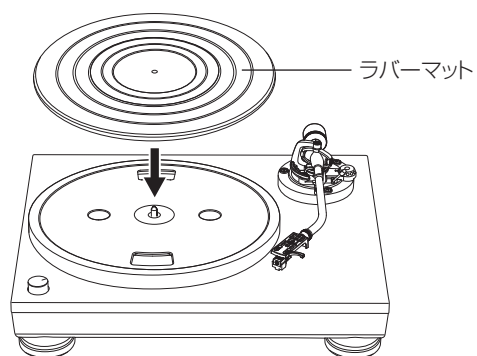
プلاتターとラバーマットの取り付けかた

1. プラッターをスピンドルに取り付けます。

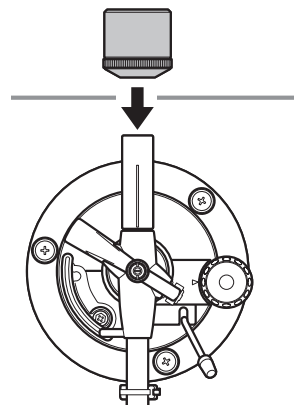
- ・プラッターがスピンドルに確実に装着されたことを確認します。



2. ラバーマットをプラッターの上に取り付けます。

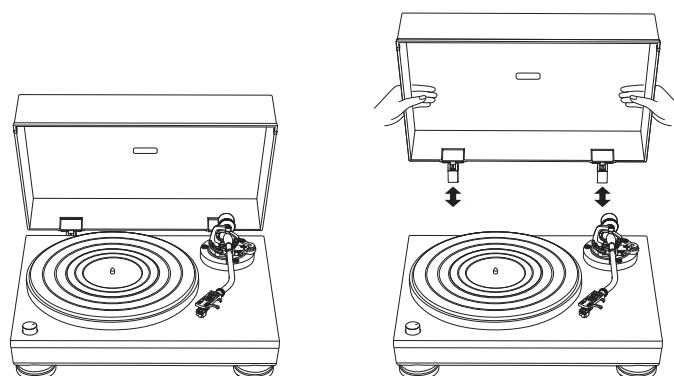


4. トーンアームの後部にカウンターウェイトを取り付けて反時計方向(左)にゆっくり回します。



ダストカバーの取り付け／取り外し

ダストカバーを取り付ける際は、ダストカバーの差し込み口を、本体背面の2つのヒンジホルダーに差し込みます。ダストカバーを取り外す際は、本体のヒンジホルダーからダストカバーをゆっくり抜きます。



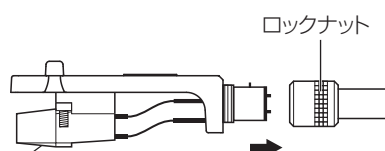
トーンアームの組み立てかた

1. 工場出荷時の、トーンアーム固定用結束バンドを外します。

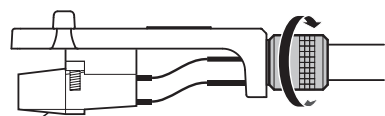
- ・トーンアームをアームレストに一時的に固定するにはクランプを使用します。

2. ヘッドシェルをロックナットに差し込みます。

- ・針を傷めたりカートリッジの配線を切らないように、ヘッドシェルの左右の縁部を持ってください。



3. ヘッドシェルを差し込んだまま、ロックナットを反時計方向(左)に回します。



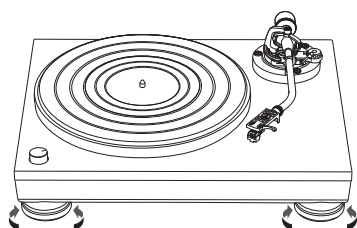
使用前の準備

設置する

- 本製品を設置するときは、水平な場所に設置してください。
- 音圧や振動の影響を避けるため、スピーカーなどから離して設置してください。
- ラジオなどを本製品に近づけると、ラジオに雑音が入る場合があります。できるだけ本製品から離してください。
- 本製品の近くに強い電波を発生させる機器(携帯電話など)があると、ノイズが発生する場合があります。

水平調整をする

1. 使用する場所に設置した後、本製品が水平になるように脚部を調整します。
 - 必要に応じて水準器(別売)を使用し、水平調整を行ってください。



調整する

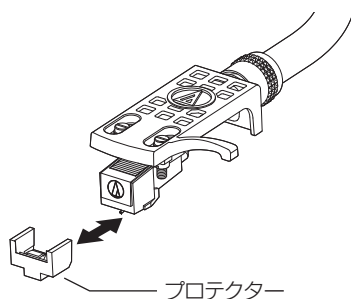
トーンアームの水平バランスと針圧の調整について

カートリッジがレコードの溝から正確に音を拾うために、カートリッジの仕様に合わせて、トーンアームの水平バランスと針圧を調整する必要があります。トーンアームの水平バランスと針圧調整が不十分だと、カートリッジの針やレコードを傷める恐れがあります。

- 水平バランスと針圧の調整を行っているとき、ラバーマットやレコードの上でカートリッジの針を引きずらないでください。針を傷つける恐れがあります。

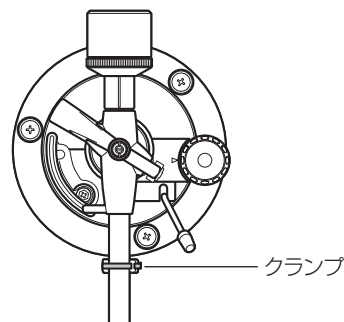
水平バランスを調整する

1. カートリッジのプロテクターを取り外します。



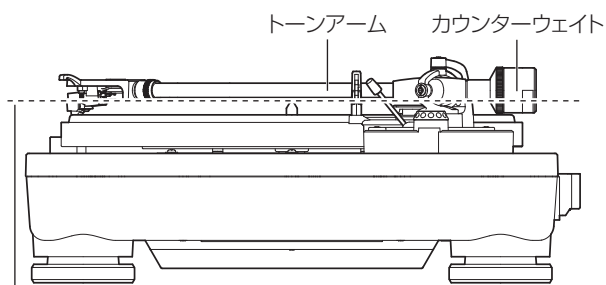
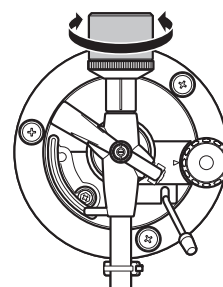
2. ヘッドシェルを軽く持ってトーンアームを動かないようにしながら、クランプを取り外します。

- トーンアームは、まだバランス調整されておらず、傾く状態です。



3. ヘッドシェルを軽く持ったままカウンターウェイトを回してトーンアームの水平バランスを調整します。

- 手を離れたときにトーンアームが水平になるように調整してください。



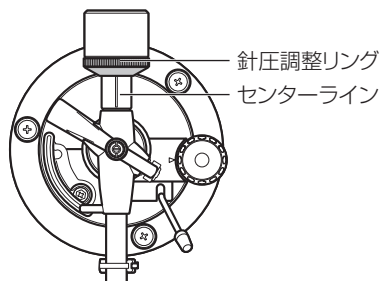
トーンアームが水平になるように調整する

4. トーンアームをアームレストに戻します。

使用前の準備

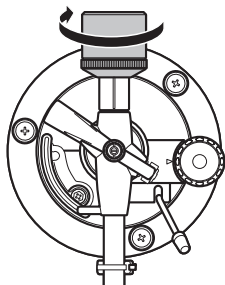
針圧を調整する

1. カウンターウェイトが動かないように押さえながら、針圧調整リングの「0」の位置がトーンアーム後部のセンターラインと重なるように回します(針圧調整リングを回しても針圧は調整されません)。



2. カウンターウェイトと針圧調整リングを反時計方向(左)に回して、ご使用のカートリッジの推奨針圧値に合わせます。

- ・推奨針圧値については、カートリッジメーカーの仕様を参照してください。
- ・本製品付属のカートリッジの針圧値は2.0gです。

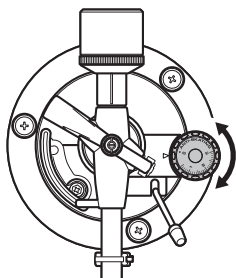


アンチスケーティングを調整する

レコードの再生中、針先が内側へ引っ張られる力が発生します。アンチスケーティングの値を針圧値と同じに設定することで、その力に抵抗します。

1. アンチスケーティング調整ダイヤルを針圧値と同じ値に調整します。

- ・本製品付属のカートリッジの針圧値は2.0gです。



オーバーハングの調整について

付属品以外のカートリッジやヘッドシェルを取り付ける際、カートリッジの取り付け位置を正確に決める必要があります(オーバーハングの調整)。本製品では同梱のクイックスタート・オーバーハング調整ガイドを使用して調整できます。

PHONO/LINE切換スイッチの設定

本製品は、フォノイコライザー機能を内蔵しています。フォノアンプまたはフォノアンプ内蔵の接続機器をお持ちでない場合でも、パワースピーカーなどをつないで本製品を使用できます。

PHONO/LINE切換スイッチを使用して、以下のように出力を設定してください。

使用する接続機器	PHONO/LINE切換スイッチの位置	RCAオーディオケーブルの接続先
PHONO入力がある機器	PHONO	接続機器のPHONO入力端子とグラウンド(アース)端子
PHONO入力がない機器	LINE	接続機器のAUX端子またはLINE入力端子
パソコンのサウンドカード	LINE	サウンドカードのLINE入力端子 ^{*1}

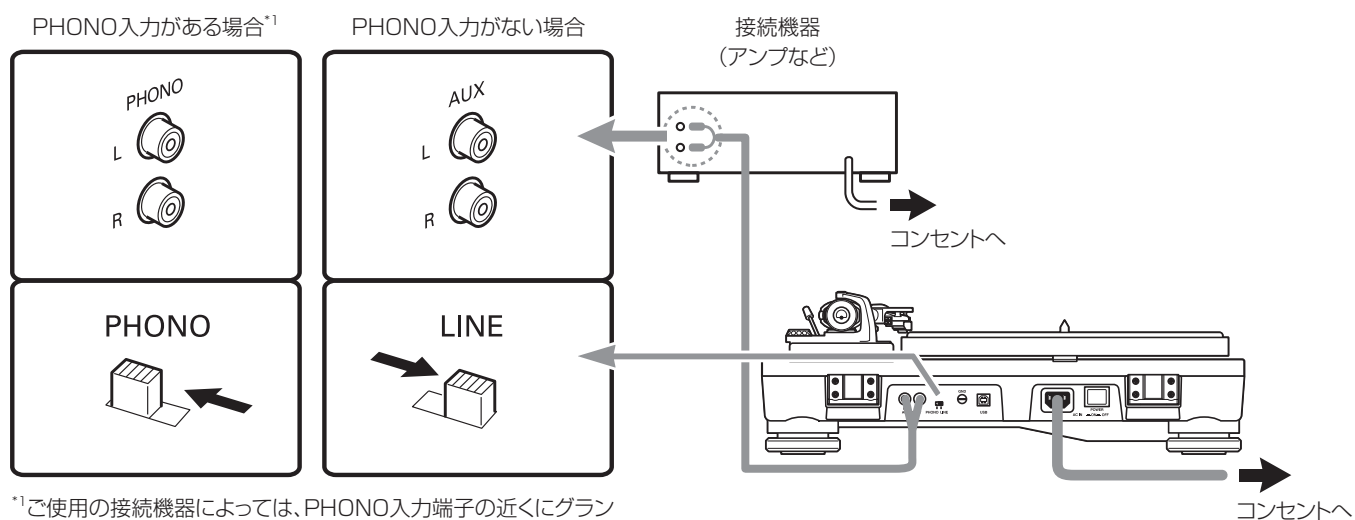
^{*1}RCAオーディオケーブルをパソコンのサウンドカードのLINE入力端子に接続するにはオーディオアダプター(別売)が必要な場合があります。

使用前の準備

接続機器との接続

PHONO/LINE切換スイッチの設定に合わせて、ご使用の接続機器(アンプ、レシーバー、パワードスピーカー、サウンドカードまたはその他の機器)の対応する入力端子に、付属のRCAオーディオケーブルを接続します。

- RCAオーディオケーブルの赤色端子が右チャンネル、白色端子が左チャンネルです。



^{*1}ご使用の接続機器によっては、PHONO入力端子の近くにグランド(アース)端子が搭載されている場合があります。その場合は、RCAオーディオケーブルのアース線で接続します。レコード再生時のノイズ(ブーンという低い雑音のハム音)が少なくなることがあります。

電源ケーブルの接続

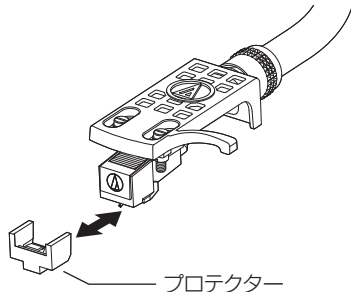
接続機器など、すべての接続が完了した後、ACインレットに付属の電源ケーブルを接続し、コンセントに差し込みます。

使いかた

再生の前に

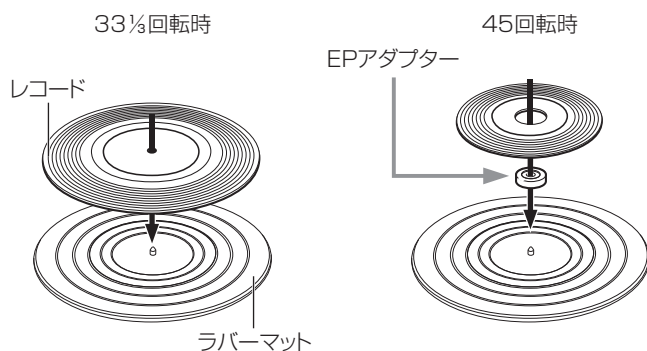
1. プロテクターを外します。

- ・ トーンアームがアームレストに固定されている場合はクランプを外します。

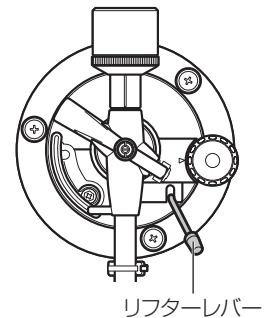


2. レコードを、中心の穴がスピンドルに合うようにラバーマットの上に乘せます。

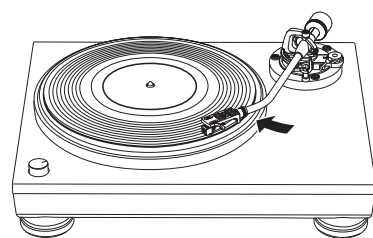
- ・ 45回転のレコードの場合は、EPアダプターを取り付けてください。



3. リフターレバーを持ち上げ、トーンアームを上げます。



4. レコードの聴きたい位置(溝)の上にトーンアームを移動させます。



5. リフターレバーを下げ、トーンアームを降ろします。トーンアームがレコード盤面までゆっくり降り、再生が開始されます。

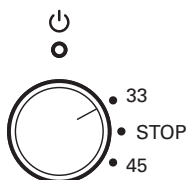
- ・ 上記の手順3、4を飛ばし、ヘッドシェルを指で持ち上げて、トーンアームをレコードの聴きたい位置に移動させ、降ろして再生を開始することもできます。
- ・ 再生中は本製品に衝撃などを与えないでください。

再生のしかた

1. アンプやスピーカーなどの音量を充分小さくしてから本製品の電源スイッチを押して電源を入れます。

2. レコードに応じてコントロールノブで回転数(「33」/「45」)を選択します。

- ・ プラッターが回転し始めます。

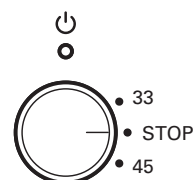


再生を中断する

1. アンプやスピーカーなどの音量を充分小さくした後、リフターレバーでトーンアームを上げます。

再生を終了する

- 再生が終わったら、アンプやスピーカーなどの音量を充分小さくします。
- リフターレバーを上げ、トーンアームをアームレストに戻し、クランプで固定します。
- コントロールノブを「Stop」位置に回します。
 - ・ プラッターが制動され、回転が停止します。

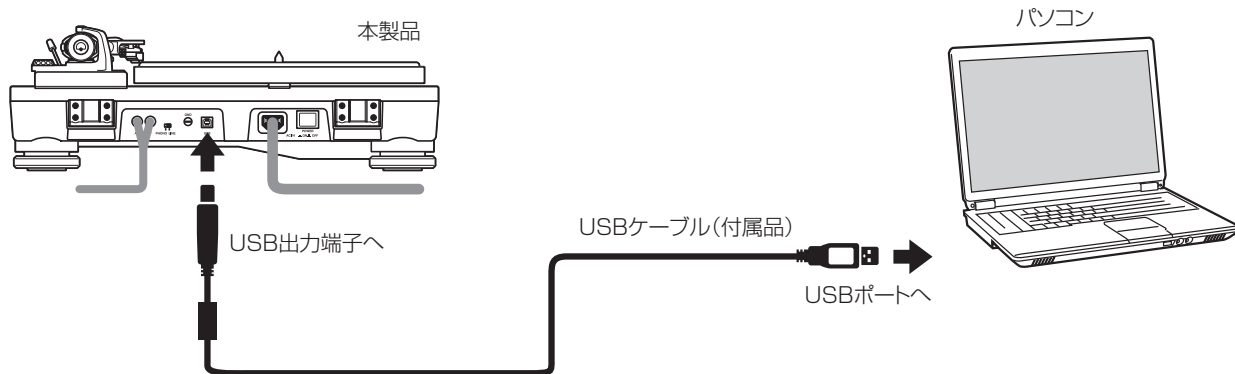


4. プラッターが完全に停止した後、レコードを取り外します。

パソコンとの接続

本製品とパソコンを付属のUSBケーブルで接続し、専用ソフトウェア「MusiCut™ Plus for Audio-Technica」(以下「MusiCut Plus」とします)をインストールして使用すると、アナログ音源を録音することができます。

- MusiCut Plusの使いかたについて詳細は、別紙の「MusiCut Plus取扱説明書」を参照してください。
- MusiCut はTracksafe Inc. の登録商標です。



MusiCut Plusについて

MusiCut Plusはアナログ音源から録音した音楽ファイルを1曲ごとに分割し、内容を解析して自動的に曲情報を設定するソフトウェアです。通常、アナログ音源などから録音した音楽ファイルは、取り込みごとのファイルとなるため、曲ごとの分割や曲名認識は行われません。本ソフトウェアを使用することで、曲の録音だけでなく曲の分割、曲認識を行うことができます。

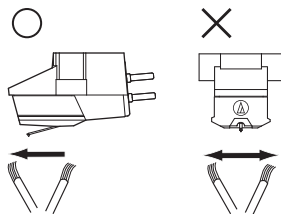
お手入れ

本体のお手入れ

- 汚れたときやほこりが付いたときは電源プラグを抜いてから、乾いた柔らかい布で拭き取ってください。
- ベンジン、シンナーなどは使用しないでください。
- 長い間保存するときには、電源ケーブルをコンセントから外し、機器をビニールなどで包み、湿気を帯びないようにしてください。

カートリッジの針先のお手入れ

- 針先にごみや汚れが付着した場合は、市販のブラシできれいにしてください。
- 汚れがひどい場合は、スタイラスクリーナー(別売)をおすすめします。根元から針先へ向かってブラシを動かしてクリーニングしてください。



MC型（ムービングコイル型） カートリッジの使用について

本製品内蔵のフォノイコライザー機能は、MM型（VM型）カートリッジ専用です。

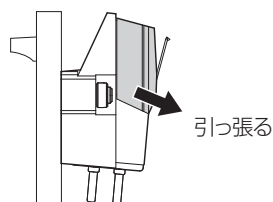
- MC型カートリッジを使用する場合は必ず、PHONO/LINE切換スイッチを「PHONO」側に設定してください。またアンプとの接続にはトランスかヘッドアンプ、または単体フォノイコライザーが必要です。MC型カートリッジの音質を活かすため、アンプにフォノ（PHONO）入力（MCポジション）がある場合はそのまま使用することもできますが、昇圧トランス（別売）かヘッドアンプ（別売）、またはフォノイコライザー（別売）の使用をおすすめします。
- MC型カートリッジを使用する場合、MusiCut Plusはご使用できません。

針交換のしかた

交換針の取り外しかた

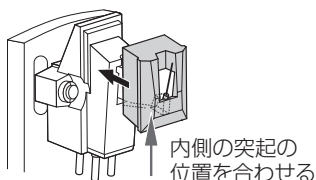
- カートリッジの針先が磨耗すると音質が悪くなるばかりでなく、レコード盤を傷める原因となります。
- 再生時間は300時間を目安に交換してください。
- 必ず本製品と接続機器の電源を切ってください。

- ヘッドシェルをトーンアームから取り外します。
- カートリッジからプロテクターを取り外します。
- 交換針を矢印の方向に引っ張って取り外します。



新しい交換針の取り付けかた

- 新しい交換針をカートリッジに取り付けます。



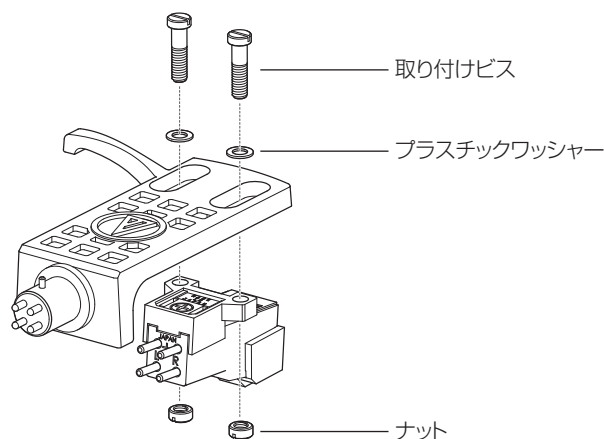
- カートリッジにプロテクターを取り付けます。
- ヘッドシェルをトーンアームに取り付けます。

カートリッジ交換のしかた

市販のカートリッジに交換する

本製品付属のカートリッジ（AT95EX）以外の、市販のカートリッジに交換する場合、使用するカートリッジの取扱説明書を参照して交換してください。新しいカートリッジに交換した後、水平バランスや針圧、オーバーハングなどの調整を再度行う必要があります。「調整する」（P.7）を参照して調整をし直してください。

- ヘッドシェルをトーンアームから取り外します。
- カートリッジから交換針を取り外します。
 - 「交換針の取り外しかた」（P.12）を参照してください。
- リードチップを取り外します。
 - リード線が切れないように注意してください。
- 取り付けビスを市販の非磁性マイナスドライバーなどで取り外して、カートリッジをヘッドシェルから取り外します。



- 新しいカートリッジの取扱説明書を参照し、カートリッジをヘッドシェルに取り付けます。
- トーンアームに取り付けます。
- 2箇所のビスを市販の非磁性マイナスドライバーなどで緩めて、オーバーハングの調整をします。
 - クイックスタート・オーバーハング調整ガイドを参照してください。
 - 調整終了後はビスを確実に締めてください。
- 水平バランスや針圧の調整を行います。
 - 「調整する」（P.7）を参照して調整し直してください。

本製品を移動するときは

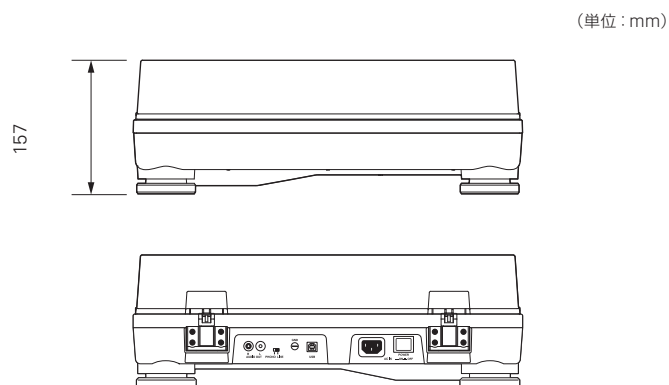
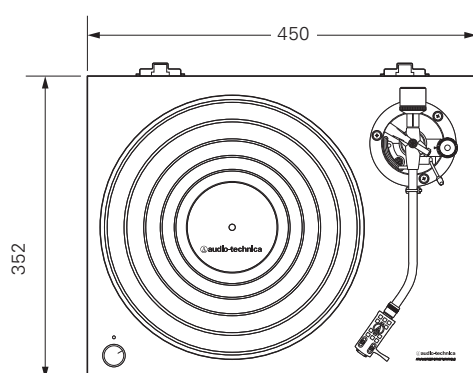
ご購入後の梱包材を使用して、開梱のときと逆の方法で梱包してください。梱包材がない場合は、以下の対応を行ってください。

- ・ 本製品の電源を切った後、ラバーマットとブラッターを取り外し、傷がつかないように梱包してください。
- ・ カートリッジにプロテクターを取り付けた状態でヘッドシェルをトーンアームから取り外し、傷がつかないように梱包してください。
- ・ カウンターウェイトを取り外します。
- ・ トーンアームをクランプで固定し、さらにひもなどで結んで動かないようにしてください。
- ・ ターンテーブル本体は、柔らかい布や紙などで傷がつかないように梱包してください。

故障かな？と思ったら

問題	解決方法
ターンテーブルは回るが、音が出ない、または音量が小さい。	・ アンプなど接続機器の機能設定や入力を選択が間違っていないですか。接続機器の設定が適切か確認してください。 ・ 針が損傷していませんか。針を確認し、交換してください。 ・ 針がカートリッジ本体に正しく装着されていますか。カートリッジを確認し、調整してください。 ・ PHONO/LINE切換スイッチの設定位置が間違っていないですか。アンプの入力に合った正しい設定がされていることを確認してください。 - 音が出ない場合や音量が小さい場合は、本製品が「PHONO」側に設定され、アンプのAUX/LINE入力に接続されています。 - 音量が大きすぎる場合や歪んでいる場合は、本製品が「LINE」側に設定され、接続機器がPHONO入力に接続されています。 ・ 針圧が大きすぎませんか。針圧を調整してください。
針とびを起こす	・ 針圧が小さすぎませんか。針圧を調整してください。 ・ アンチスケーティングの調整が不十分ではありませんか。アンチスケーティングがカートリッジの針圧と同じ値に設定されているか確認してください。 ・ レコードが反っていませんか。レコードを確認してください。 ・ レコードに傷がついていませんか。レコードを確認してください。
ハウリングが生じる	・ 本製品が、床、壁面、または近くのスピーカーから過度に振動を拾っていませんか。振動を小さくするか、振動の影響を受けない場所に本製品を置いてください。 ・ 本製品が不安定な場所に設置されていませんか。設置場所が適切か確認してください。
レコードの再生音にノイズが生じる	・ カートリッジの針先にほこりがついていませんか。ついている場合は、市販のブラシできれいにしてください。
レコードの再生音が速すぎる、または遅すぎる。	・ 本製品の回転数の設定が間違っていないですか。コントロールノブで、再生するレコードの種類に合った正しい回転数を選択してください。
再生中にブーンという音が入る	・ アース線が正しく接続されていますか。アース線を確認してください。 ・ ヘッドシェルがトーンアームにしっかりと固定されていますか。ロックナットを確認してください。

外形寸法図



テクニカルデータ

ターンテーブル本体の仕様

型式	ダイレクトドライブマニュアルターンテーブル
駆動モーター	直流モーター
駆動方式	ダイレクトドライブ方式
回転数	33-1/3または45回転/分
ターンテーブルプラッター	アルミダイキャスト製
始動トルク	> 1.6kgf・cm
制動方式	電子制動
ワウフラッター	< 0.2% WRM(33回転時)
SN比	> 50dB
出力レベル 「PHONO」(プリアンプ接続時) 「LINE」(プリアンプ使用時)	標準値3.5mV(1kHz、5cm/秒) 標準値150mV(1kHz、5cm/秒)
PHONOプリアンプゲイン	標準値36dB、イコライザー特性RIAA
USB機能 A/D、D/A コンピューターインターフェイス	USBで16ビット44.1kHz USB 2.0に対応 (Window Vista、Windows 7、 Windows 8、Windows 8.1、 Windows 10)

トーンアームの仕様

種別	スタティックバランス式J字型トーンアーム
有効長	247mm
オーバーハング	17mm
最大トラッキングエラー角	2.5°未満
針圧調整範囲	0~2.5g
使用可能なカートリッジ質量範囲 (ヘッドシェルを含む)	15~20g

カートリッジとヘッドシェルの仕様

カートリッジ型式	AT95EX
カートリッジ種別	VM型(デュアルマグネット)ステレオカートリッジ
推奨負荷インピーダンス	47kΩ
出力電圧	3.5mV(1kHz、5cm/秒)
針先形状	0.3×0.7mil楕円形
針圧の範囲	1.5~2.5g(標準値2g)
カートリッジ質量	5.7g
ヘッドシェル型式	AT-HS10
ヘッドシェル質量	10g
ヘッドシェルオーバーハング 調整範囲	±5mm

一般仕様

電源条件	AC 100V、50Hz/60Hz
消費電力	6W
外形寸法	450mm×352mm×157mm (幅×奥行き×高さ)
質量	8.5kg
付属品	ラバーマット、ダストカバー、プラッター、 カウンターウェイト、VM型ステレオカ ートリッジ(AT95EX)付きヘッドシェル (AT-HS10)、EPアダプター、電源ケ ーブル、USBケーブル、RCAオーディ オケーブル
交換針	ATN95EX
交換ヘッドシェル	AT-HS10 BK AT-HS10 SV

改良などのため予告なく変更することがあります。

お問い合わせ

アフターサービスについて

本製品をご家庭用として、取扱説明や接続・注意書きに従ったご使用において故障した場合、保証書記載の期間・規定により無料修理をさせていただきます。修理ができない製品の場合は、交換させていただきます。お買い上げの際の領収書またはレシートなどは、保証開始日の確認のために保証書と共に大切に保管し、修理などの際は提示をお願いします。

お問い合わせ先（電話受付／平日9：00～17：30）

製品の仕様・使いかたや修理・部品のご相談は、お買い上げのお店または当社窓口およびホームページのサポートまでお願いします。

- **お客様相談窓口（製品の仕様・使いかた） ☎ 0120-773-417**
（携帯電話・PHS などのご利用は 03-6746-0211）
FAX：042-739-9120 Eメール：support@audio-technica.co.jp
- **サービスセンター（修理・部品） ☎ 0120-887-416**
（携帯電話・PHS などのご利用は 03-6746-0212）
FAX：042-739-9120 Eメール：servicecenter@audio-technica.co.jp
- **ホームページ（サポート）** www.audio-technica.co.jp/atj/support/